

## まちなか雪まつり&雪像コンテスト 冬ならではの魅力を発信

まちなか活性化協議会（吉澤信光会長）が主催する「まちなか雪まつり」が2月1日に開催され、会場の新町自治会館周辺には約300人が来場しました。

はじめに行われた第18回雪像コンテスト表彰式では、工夫を凝らした雪像を制作した個人や団体を表彰。町議会議長賞を受賞した小屋瀬保育園を代表して表彰状を受け取った宇賀小夏ちゃん（6歳）は「お母さんと一緒に作れて楽しかった。またみんなで雪像をつくりたい」と喜びを見せていました。

その後、茶屋場えんぶり保存会による五穀豊穡を願う舞が披露され、縁起の良い演舞に来場者は釘付けになりました。さらに会場内では、雪の中に隠されたカラーボールを探す雪中宝さがしが行われ、子どもたちは雪の中を駆け回り、見つけるたびに歓声をあげて楽しんでいました。また、甘酒のお振る舞いもあり、来場者たちは冬ならではの魅力を満喫していました。



1雪像の前を駆ける子どもたち 2豊作を願う茶屋場えんぶり 3甘酒のお振る舞い 4雪像コンテストで町長賞を受賞した寺田自治会青年部の作品 5同じく町議会議長賞を受賞した小屋瀬保育園の皆さん

## 手作りみそに挑戦 郷土の食文化を再発見

町公民館主催の食文化再発見講座が2月11日、くずま〜る調理室で開催され、9人が参加しました。講師は町出身の高橋千代子さん（盛岡市）が務め、みそ作りに取り組みました。

高橋さんは、親しみ深い郷土食を若い世代にも伝えたいとの思いから、作りやすく保存しやすいレシピを紹介。豆の品種や作る環境で味が変わること、適切な保存方法などを説明しました。参加者は豆の触感を確かめながら作業を進め、郷土の食文化に触れる機会となりました。



みそ作りに挑戦する親子と講師の高橋さん（円内）



ミズキの枝に色とりどりの団子を飾り付ける園児たち

## 葛巻保育園でみずき団子づくり 願いを込めて彩りを添える

葛巻保育園（茅森幸子園長）のみずき団子づくりが1月28日、同園内で行われ、園児たちが小正月の風物詩を楽しみました。

園児たちは、保育士と一緒に色とりどりの団子を作り、ミズキの枝に飾り付け。団子のほかにも「千万両」と書かれた小判や「交通安全」など、お手製の飾り物も枝に付けてさまざまな願いを込めながら作業しました。彩りの添えられたミズキの枝を見つめる子どもたちの表情は、達成感に満ち溢れていました。

## 朗読会に樹原さんと高橋さん 心に響く朗読の世界を堪能

朗読を楽しむ会（同実行委員会主催）が1月31日、まき×まきホールで開かれ、約30人が来場しました。樹原ゆりさんと高橋和久さんが読み手を務め、浅田次郎さんの短編「うらぼんえ」を朗読。会場は物語の世界に引き込まれるような静かな空気に包まれました。

樹原さんは「24年前から葛巻町で朗読をさせてもらっている。このご縁を大切にしたい」と語り、まるで芝居のように情景が浮かぶ朗読に、来場者からは大きな拍手が送られました。



情感豊かに朗読する樹原さん@と高橋さん

## 町民スキー・スノーボード大会 成果を発揮し好記録を狙う

第52回町民スキー大会、第17回町民スノーボード大会が2月1日、平庭高原スキー場で開催されました。

今大会には小学生から一般までの約40人の選手がエントリー。年代別、男女別に大回転でタイムを競い、高原の冷たい風を受けながら、華麗にコースを滑走しました。閉会式では成績上位入賞者の表彰が行われ、町スキー協会の川戸清美会長は「見事な滑走が多く良い記録が目立った」と話し、選手たちをねぎらいました。



華麗な滑走を見せる出場選手